

はじめに

Introduction

本書は、平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）に基づく「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」（実施期間 2014 年 12 月 1-11 日）の最終日 12 月 11 日に開かれた公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」（以下 WS）の報告書です。

この事業の略称である JAL2014 の JAL とは、Japanese-art librarian であり、海外において日本美術の資料に関わる司書を日本に招き、日本における美術資料・情報の現況を多面的に触れていただきながら、関係者との交流を図るものです。

JAL は librarian, 司書を主な対象としておりますが、加えて、アート・アーキビスト (art archivist), 視覚資料司書/学芸員 (visual resources librarian/curator), さらに視覚資料をおもな研究対象資料とする日本研究者も応募可能な対象者といたしました。本書巻末に掲載の募集要項においては下記のように記載しております。

- a) 日本国外において日本美術の範囲に関わる文献および視覚資料の扱いを専らとする図書館員
A librarian working on Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan
- b) 日本国外において日本美術の範囲に関わる文献および視覚資料の扱いを専らとするアーキビスト, ヴィジュアル・リソース・キュレータ
An archivist or a visual resources curator working on Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan
- c) 日本国外において日本美術の範囲に関わる文献および視覚資料を用いて日本研究に従事している者
A Japanologist using Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan

日本美術の範囲についても「写真・映像・マンガ・デザイン・建築等の視覚芸術全般」を含むものというように、かなりの広範囲といたしました。

JAL2014 実行委員会¹⁾は平成 26 年度の始まりとともに組織され、海外関係諸機関 (IFLA, NCC, EAJRS 等) のメーリングリストに公募情報を流した結果、アメリカ合衆国, オーストラリア, アルゼンチン, フランス, イギリスからの照会がありました。9 月に実行委員およびコメンテータ (林理恵氏, 小出いずみ氏) による選考会議の結果、本書において WS でのプレゼンテーションを記録掲載する 7 名が招へいされました。

12 月 1 日より、東京・京都・奈良の 9 機関を訪問しながら研修を深め、招へい者は前日のリハーサルを経てワークショップの当日を迎えました。

掲載のプログラム (p.5) の通り、10:30 から始まった WS は、加茂川実行委員長の挨拶、水谷副委員長の基調報告に続いて、招へい者とコメンテータのプレゼンテーションが進行し、最後にフロアとの質疑を交えてのパネルディスカッションとなりました。

WS のタイトルを「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」としたのは、3 つの JAL2014 の目的²⁾の一つであり、その中でも特に大きな眼目であった、「日本の美術情報資料の基盤を客体化する」ことを狙ったことでした。

その目的の達成については、ぜひ招へい者ならびにコメンテータの精力的なプレゼンテーションの記録をご覧いただき、ご批評賜れば幸いです。

本プロジェクトは文化庁の補助金によるものであり、最低でも3年間の継続を目指しております。現在は、次年度のJAL2015へ向けて、申請書を用意するとともに、本報告書の編集制作と平行して、機会ある限りJALプロジェクトについて、今後の多くの参加者を募るために幅広く広報につとめたいと考えております³⁾。

最後に多くのご協力、ご支援をいただいた関係各位に深くお礼申し上げます。

2015.3.31
JAL2014 実行委員会

註

- 1) JAL2014の実行委員会委員長に加茂川幸夫（東京国立近代美術館長）、副委員長に松本透（同副館長）、副委員長兼事務局長に水谷長志（同主任研究員）、委員に川口雅子（国立西洋美術館）、室屋泰三（国立新美術館）、田中淳、橘川英規（東京文化財研究所）。
- 2) 基調報告（p. 10-11）に記載。
 - (1) 日本と海外のJALのネットワークを構築する
Networking between JALs in Japan and those abroad
 - (2) 海外のJALのネットワークを促進する
Promotion of networking among JALs outside Japan
 - (3) 日本の美術情報資料の基盤を客体化する
Review and rethinking of Japan's art-information infrastructure from an international perspective
- 3) 本書p.13の国立国会図書館カレントアウェアネスならびに2015年2月28日-3月2日にブカレスト大学が主催する第5回国際日本学研究シンポジウム、3月9日に国立西洋美術館で開催された全国美術館会議主催の学芸員研修会において、報告広報されている。

謝辞

JAL2014の実施にあたり、貴重なご助言、ご協力をいただいた下記の皆様に深く感謝の意を表します。（訪問等日付順、敬称略）

江上敏哲（国際日本文化研究センター）	赤間亮，鈴木桂子（立命館大学）
國谷泰道（DNPアートコミュニケーションズ）	高橋裕次，住広昭子（東京国立博物館）
高野明彦（国立情報学研究所）	大島薫，加藤祐平（国立国会図書館）
宮崎幹子，嘉数周子（奈良国立博物館）	栗田淳子（国際交流基金）

Kuniko Yamada McVey マクヴェイ山田久仁子, Chair, NCC, Harvard University

Tokiko Bazzell Yamamoto バゼル山本登紀子, Hawaii University

Willy Vande Walle, Professor, EAJRS, University of Leuven

Arjan van der Werf, Secretary, EAJRS, East-Asian-Library, University of Leuven

Jiyeon Wood, SOAS, University of London

Marketa Hanova & Jana Ryndova, National Gallery in Prague

Tomáš Klima, Naprstek Museum of Asian, African and American Cultures in Prague

Anca Focseneanu & Steluta Maxim, The Center for Japanese Studies, University of Bucharest

Min Xu, The Metropolitan Museum of Art, New York